

## Think of HIV/AIDS

# なぜ日本がアフリカのHIV/AIDS対策に 取り組む必要があるのか

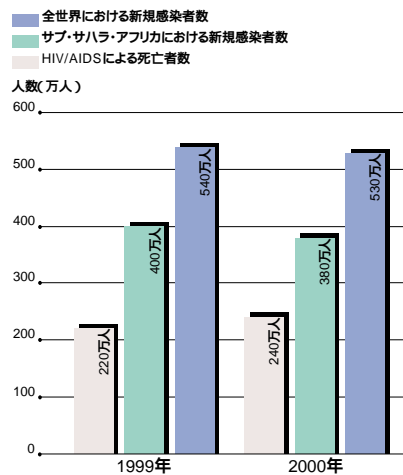
HIV/AIDSはサブ・サハラ・アフリカの国々にとって保健上の問題にとどまらない開発上の問題そのものであり、その影響が甚大のために、これらの国々の安定の基盤を揺るがしかねません。また、アフリカでは、貧困や紛争のため、政府が適切なHIV/AIDS対策に取り組むことが阻まれるという状況もあります。その意味でHIV/AIDSは国際社会が優先的に取り組むべき問題であり、多角的な対策やきめ細かい対応が必要です。日本は、「人間の安全保障」を外交の理念として掲げ、一人ひとりの個人の生存、生活、尊厳を確保するため、国際社会において責任ある役割を果たしたいと考えており、アフリカ問題への取り組みこそ日本のグローバル外交の最重要課題の一つであると認識しています。こうしたことから、アフリカが直面している課題の中でも深刻なHIV/AIDSに対し、積極的に取り組み、世界の平和と安寧の実現に貢献したいと考えています。



写真提供 / 日本ユニセフ協会 © UNICEF/DOI94-1236/CHAD

## HIV/AIDSの新規感染者数と死者数

「世界のHIV/AIDS感染状況報告2000年12月版 (UNAIDS及びWHO)」より作成



エチオピア内戦、首都アディスアベバの砲撃現場付近を歩く市民  
写真提供 / AFP-JJJI



ルワンダ内戦、首都キガリ市内をパトロールする反政府ゲリラの兵士  
写真提供 / AFP-JJJI

## Think of HIV/AIDS

# 日本の取り組み

## 人口・エイズに関する 地球規模問題イニシアティブ (GII)

日本は、HIV/AIDS対策をODAの重点課題のひとつとし、人口・エイズに関する地球規模問題イニシアティブ (GII) の枠組みの中で様々なHIV/AIDS対策を行ってきました。具体的には、アジア及びアフリカを中心とした、予防・啓発、人造り、基礎研究、安全な血液供給、医療機材供与、母子感染対策、孤児救済など多岐にわたる支援を展開しています。

GIIに関する情報は  
ホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/>

## アジア・アフリカに対する 日本の主なHIV/AIDS対策



ザンビア首都ルサカ市のコンバウンド (黒人貧民窟) 調査  
写真提供 / 国際協力機構



ザンビア感染症プロジェクトで、ウイルス学の指針における専門家  
写真提供 / 国際協力機構

# Think of AIDS

# AIDS

## 沖縄感染症対策イニシアティブ

2000年7月の九州・沖縄サミットにおいて、日本はG8サミット議長国としてHIV/AIDSを含む感染症の問題を途上国の開発に関する主要課題のひとつとして取り上げました。この機会に、日本は「沖縄感染症対策イニシアティブ」を発表し、この分野で今後5年間で総額30億ドルを目途とする協力をを行うこととしました。

同年12月には、九州・沖縄サミットで採択された「G8コミュニケーション沖縄2000」に基づき、フォローアップの一環として、「感染症対策沖縄国際会議」を開催しました。この会議は、G8のみならずG8各国、国際機関、NGOを含めた幅広い参加の下、感染症問題への具体的な対策を討議した初めての機会となり、具体的な行動計画が策定されました。

沖縄感染症対策イニシアティブに関する情報はホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda>



感染症対策沖縄国際会議 写真提供 / 琉球新報社

2001年1月の森総理のアフリカ諸国訪問の際には、対アフリカ外交に関する政策スピーチの中で、感染症協力を今後のTICADプロセスの一つの柱とすること、5年間で30億ドルを目途とする「沖縄感染症対策イニシアティブ」における協力をアフリカに対して積極的に実施していくことを表明しました。今後具体的な行動に移していくことが重要です。



南アフリカにおける森総理のアフリカ政策スピーチ 写真提供 / 内閣広報室

## TICAD アフリカ開発会議 プロセス

日本は、98年に開催した第2回アフリカ開発会議(TICAD II)の際に発表した新たなアフリカ支援プログラムに基づき、HIV/AIDSを含む保健医療分野で5年間で900億円程度の無償資金協力の実施に努めています。また、2000年11月に「保健医療分野アフリカ支援セミナー」を開催しました。このセミナーでは、HIV/AIDS対策を日本の対アフリカ政策における最重要課題の一つとして取り組みを強化する考えであることを表明しました。また、同セミナーでは、アフリカとアジア・中南米諸国との間でエイズ対策に関する経験と知識の共有が図られるとともに、これらの国々によるいわゆる「南南協力」を促進させていくことの重要性が確認されました。

TICAD(アフリカ開発会議)プロセスに関する情報はホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/>



セネガル国立サンルイ病院で臨床検査技師として活動にあたる青年海外協力隊員 写真提供 / 国際協力事業団



写真提供 / PPS通信社

The African Seminar on Health Development  
-South-South Cooperation Regarding HIV/AIDS-  
1-2 November, 2000  
MHW MOFA UNAIDS JICWELS



保健医療分野アフリカ支援セミナーにて



## アフリカ開発会議とは

日本は国連等と協力して、93年及び98年にアフリカ開発会議(TICAD I及びTICAD II)を開催しました。この会議では、アフリカの貧困を削減し、アフリカ経済を世界経済へ一層参画させるための施策について、アフリカの指導者と開発パートナーを交えて議論が行われ、社会開発、経済開発、開発の基盤の3分野で具体的な目標を設定するとともに、具体的な行動目標を示した「東京行動計画」が採択されました。TICAD II以降、日本は国連等とも協力しながら、様々なフォローアップを着実に実行してきており、2001年12月にはアフリカ開発に関する閣僚レベル会合を開催する予定です。



TICAD IIにて基調演説する小淵総理(当時)